

第 60 回運転・保守分科会議事録

1. 日 時：2025 年 10 月 28 日（火）10:00～12:00

2. 場 所：一般社団法人 日本電気協会 4 階 B 会議室（Web 併用会議）

3. 出席者：（敬称略，順不同）

出席委員：出町分科会長（東京大学），竹本幹事（日本原子力発電），大野（日立 GE ベルハブニュークリアエナジー），
日隈（東芝エネルギーシステムズ），山上（三菱重工業），芦谷（九州電力），伊藤（東北電力），
川越（中国電力），河村（北陸電力），鈴木_直（中部電力），豊田（四国電力），長江（東京電力 HD），
藤田（北海道電力），浜田（日本原燃），川島（JAXA），桐本（電力中央研究所），
近澤（日本原子力研究開発機構），堀（日本原子力研究開発機構），歌野原（公立小松大学），
鈴木_正（中京大学），高橋（東北大学），渡辺（元福井大学），井口（発電設備技術検査協会），
坂元（原子力安全推進協会），岩垂（BWR 運転訓練センター），久保（日本エヌ・ユー・エス），
仲井（元日本原子力研究開発機構），永山（原子力安全システム研究所），

（計 28 名）

代理出席者：なし

（計 0 名）

欠席委員：山崎（電源開発），山本（関西電力），糸井（東京大学），木倉（東京科学大学），
小倉（元ウエバールサービス），濱田（原子力発電訓練センター）

（計 6 名）

説明者：運転保守指針検討会 松澤主査（東京電力 HD），米澤副主査（日本原子力発電）

（計 2 名）

常時参加者：なし

（計 0 名）

オブザーバ：なし

（計 0 名）

事務局：梅津（日本電気協会）

（計 1 名）

4. 配付資料

60(1)-1 運転・保守分科会委員名簿

60(1)-2 運転・保守分科会委員名簿（日程調整）

60(2)-1 運転管理検討会委員名簿

60(2)-2 緊急時対策指針検討会委員名簿

60(2)-3 保守管理検討会委員名簿（案）

60(2)-4 防火管理検討会名簿

60(2)-5 運転保守指針検討会名簿

60(3) 第 59 回運転・保守分科会議事録（案）

60(4)-1 軽水型原子力発電所の運転保守指針（JEAG4803-1999）の廃止

5. 議 事

事務局から，本会議にて，私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触するおそれのある活動を行わないことを確認の後，出町分科会長の開催の挨拶があった。

(1) 代理出席者、オブザーバ、委員定足数、常時参加者、説明者、配付資料の確認

事務局より、出席委員は現時点で 28 名であり、分科会規約第 10 条（会議）第 1 項の開催条件の委員総数の 3 分の 2 以上の出席を満たしているとの報告があった。その後、説明者 2 名の紹介及び配付資料の確認があった。また、資料 No.60(1)-1 に基づき、以下運転・保守分科会新委員の紹介があり、新委員より挨拶があった。

伊藤委員(東北電力)、久保委員(日本エヌ・ユー・エス)

(2) 検討会新委員候補について（審議）

事務局より、資料 No.60(2)シリーズに基づき、下記検討会委員の変更について説明があった。分科会規約第 13 条（検討会）第 4 項に基づき、検討会委員変更について分科会規約第 12 条（決議）第 4 項に基づく決議の結果、特にコメントはなく、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

【保守管理検討会】

・委員候補 大東 氏（原子力安全推進協会）

(3) 前回議事録の確認(審議)

事務局より、資料 No.60(3)に基づき、前回議事録（案）の説明があり、正式議事録とすることについて分科会規約第 12 条（決議）第 4 項に基づき決議の結果、特にコメントは無く、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

また、事務局より、JEAC4209/JEAG4210 改定案を 9 月度原子力規格委員会へ上程し、10/20 に書面投票の結果可決となった旨紹介があった。更に、JEAG4102 が 9/19~11/18 で公衆審査中である旨紹介があった。

(4) 規格廃止

1) JEAG4803-1999「軽水型原子力発電所の運転保守指針」（審議）

運転保守指針検討会 松澤主査及び米澤副主査より、資料 No.60(4)-1 に基づき、JEAG4803-1999 廃止について説明があった。

JEAG4803-1999 廃止について、書面審議に移行することについて決議の結果、承認された。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 現在の運用で JEAG4803-1999 の要求が満足されている旨を QA 対応として準備すること。
- ・ JEAC4209/JEAG4210 において保全計画/点検計画の中で試験の頻度や時期を定めており、実際の要領は試験実施前に決めるというプロセスであると認識している。QA 対応として準備しておいた方がいいのではないかと。
- JEAG4803-1999 の要求と完全に一致しているわけではないため、回答の際は注意する。
- ・ ASME O&M には電動弁の作動確認でのデータ採取まで記載があるが、JEAG4803-1999 にもそこまでの記載があるのか。
- JEAG4803-1999 にはそこまでの記載はない。
- ・ 例えば ECCS の電動弁について、運転中の実動作確認でしか健全性を担保できないわけではなく、定事検や定例試験で確認している。健全性を確保するという方針は当然同じ。

- ・ 我が国では時間基準保全を実施しているから問題ない、ととられないように注意が必要。QA 対応において、時間基準保全を実施している現在では劣化前に交換やリプレースを実施している、等は言及しない。
 - ・ JEAC4209/JEAG4210 の改定の際には保全全般に係る海外規格や法令を確認しているが、ASME O&M は範囲が少し異なり、無理に反映すると JEAC4209/JEAG4210 の性格が変わってしまう恐れがある。分科会として ASME O&M をウォッチしていき、受け皿については議論が必要。
 - ・ 資料 No.60(4)-1 の P4、動向調査について ASME O&M 「等」となっている。米国 NRC がエンドースして規制要求になっていることもあるためこのような記載になっているが、不明確のため「等」は削除する。
 - ・ ASME O&M のウォッチはするが、それを基にして新たに規格を策定するわけではないため、回答の際は注意する。また、JEAG4803-1999 は役割を終えたというポジティブ要素を回答する。
 - ・ JEAG4803-1999 を参考に標準化された運用の具体例を準備すること。
 - ・ 技術資料について、利用者の具体的な想定は。
- 新たに検査を検討する事業者、具体的には初めてプラントを運転するような事業者が想定される。
- ・ 技術資料のデジタル的な工夫については、あくまで可能性の検討とする。
 - ・ 技術資料の関連資料として、過去の電気協会議事録等が考えられる。
- ・ 十分な議論がされたと考えるため、書面投票に移行することについて決議を取りたい。

○ 特に異論がなかったので、JEAG4803-1999 廃止に対し、運転・保守分科会として下記条件で書面投票に移行することについて、分科会規約第 12 条（決議）第 4 項に基づき挙手にて決議の結果、特にコメントはなく、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

- ・ 書面投票期間は 10 月 28 日(火)から 11 月 18 日(火)の 3 週間とする。
- ・ 書面投票の結果、可決された場合には、原子力規格委員会に上程する。
- ・ なお、規格廃止であるため、審議対象は資料 No.60(4)-1 であり、JEAG4803-1999 そのものは今回の決議、原子力規格委員会での審議及び公衆審査において審議対象とはならない。
- ・ 今後、資料 No.60(4)-1 について分科会所掌時の編集上の修正については、編集上の修正か否かの判断及び修正内容を分科会長に一任とする。

(5) その他

- ・ 次回運転・保守分科会は、2026 年度計画及び JEAG4803-1999 廃止に伴う技術資料作成の状況報告を予定。開催時期は 2 月上旬を考えており、別途調整する。

以 上